

# 「非常時地下水利用指針(案)」から 島しょ地域の“応急水源”を考える

近年、各地で起きている大規模災害の教訓から、国や自治体では防災・減災インフラの整備が進められています。こうしたなか、内閣府の水循環政策本部は「災害時における地下水等活用推進に向けた有識者会議」を開催し、大規模災害時の応急水源として地下水の活用を自治体に促すための運用指針を検討しています。

本セミナーでは、有識者会議の座長を務める遠藤崇浩氏をお招きし、遠藤氏が2023年度に作成した「非常時地下水利用指針(案)」についてご講話いただきます。また、沖縄における湧水の防災・減災資源化の取り組み事例を市民団体の「湧き水 fun 倶楽部」代表ぐしともこ氏からご紹介いただきます。

これらの政策と実践をつなぎ合わせ、島しょ地域において実効力のある“応急水源”を整備・運用するためには、どのような“仕組み”と“仕掛け”が必要でしょうか。身近な「水」の価値と可能性を掘り下げながら、一緒に考えてみませんか？

講師 遠藤 崇浩 (えんどう たかひろ)

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科・教授。京都大学防災研究所客員教授。総合地球環境学研究所LINKAGEプロジェクト共同研究員。内閣官房水循環政策本部事務局水循環アドバイザー。慶応義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。博士(法学)。専門は政治学。特に地下水管理政策を研究。2023年3月に内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」(研究推進法人:国立研究開発法人防災科学技術研究所)の研究成果として「非常時地下水利用指針(案)」を作成。



非常時地下水利用指針(案)



## 事例紹介 ぐしともこ

湧き水 fun 倶楽部代表。那覇出身。1998年から2008年の10年間、ラジオ沖縄で放送された「多良川うちなあ湧き水紀行」のパーソナリティとして県内約400カ所のカー(湧き水)を訪ねて取材。番組終了後、2010年に湧き水に関する情報収集と発信を目的とした「湧き水 fun 倶楽部」を結成。湧き水を取り巻く自然、環境、歴史、文化、防災の観点から活動している。2012年、浦添市防災危機管理室から依頼を受けて災害時に利用できそうなカー(湧き水)を調査。その翌年から市の「防災マップ」にカー(湧き水)が記載されるようになった。



湧き水 fun 倶楽部活動記録

日時 2025年 **3**月 **1**日(土) 15:00 ~ 17:00

プログラム 15:00 開会のあいさつ・趣旨説明  
15:05 基調講演 遠藤 崇浩先生  
15:50 事例紹介 ぐしともこさん  
16:15 トークセッション  
「暮らしを守る地域の水  
～応急水源としての活用～」  
16:45 質疑応答  
17:00 閉会のあいさつ

対象 ●自治体、自治会、企業等の防災担当者  
●地域の防災・減災に関心のある方  
●身近な水を資源として活用するアイデアに関心のある方など

参加費 A. 視聴チケット 500円(当日視聴のみ)  
B. アーカイブ付き視聴チケット 800円(当日+アーカイブ視聴)

※基調講演と事例紹介を収録した動画を「アーカイブ動画」として「Bチケット」申込者に限定配信します  
※セミナーの収益は島しょ地域の“応急水源”整備・運用のための活動支援に役立ちます

申込み \*zoomによるオンラインセミナーです  
【事前申込制】お申込み受け付けはイベント管理サイトPeatix(ピーティックス)を利用しています  
「チケットを申し込む」ボタンからご希望のチケットを選んでお申し込みください

定員 50名 ※Peatix(ピーティックス)からお申込みできない方は【お問合せ】メールにご連絡ください。

※Peatix(ピーティックス)から受付完了メールが届かない場合は、迷惑フォルダ  
迷惑フォルダをご確認の上【お問合せ】メールにご連絡ください。  
※セミナー当日は「イベント視聴ページに移動」からアクセスしてください。



【お問合せ】 [suimar.pj@gmail.com](mailto:suimar.pj@gmail.com)

【主催】 沖縄地域公共政策研究会すいまーるプロジェクト  
【協力】 湧き水 fun 倶楽部  
【後援】 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

### 沖縄地域公共政策研究会すいまーるプロジェクト

沖縄地域公共政策研究会は、琉球大学の地域公共人材養成プログラム「初級地域公共政策士」と「地域公共政策士」の有資格者で構成される実践研究会です。すいまーるプロジェクトは、島しょ地域の健全な水循環と水資源に寄与する調査、研究、啓発を行うとともに、多様なセクターとの連携や協働を通して「水のゆいまーる(共助)」に資する地域公共政策を担うことを目的としています。「すいまーる」は水(すい)と、沖縄のことで助け合いを意味する“ゆいまーる”を掛け合わせた造語です。